

NBP233AE01

- 正しい施工をしていただくため、必ずお読みください。
- 施工するには、電気工事士・消防設備士(甲種第4類)の資格が必要です。
- 施工後、必ず施工主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお返しください。
- 万一、施工説明書にしたがわずに施工された場合の事故や故障については責任を負い兼ねることがあります。
- 火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

安全上のご注意

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

警告

- ぬれた手で受信機をさわったり、水をつかけたり、水をかけたりしないでください。感電・故障の原因になります。
- 電池は必ず接続してください。電池が接続してないと停電時に機能しません。
- AC100V専用です。接続まえに入力電圧の確認をしてください。それ以外の電圧では故障の原因になります。
- 受信機は施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるようにしっかりと取り付けてください。不安な取り付けは脱落によりケガの原因になります。
- AC100V配線は、確実に差し込んでください。感電や発熱・故障の原因になります。

施工上のご注意

- この商品は「屋内専用」です。屋外・屋側には設置しないでください。
- 接続機器については、その商品の説明書をよくお読みください。

地区ベル接続時のご注意

- 必ず受信機の地区ベル接続容量以内で使用ください。
- 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
 - 1.地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

●次のような場所には設置しないでください。(誤動作や故障の原因となります。)

- 直射日光の当たる場所
- 水滴、蒸気、ほこりなどがかる場所
- 周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- 衝撃、振動などの影響を受ける場所
- 常に人がいなくてようすを確かめられない場所
- 薬品などのガスが発生する場所
- 強電界やノイズの発生する場所

- 地区ベルのかわりに非常警報設備と連動させる場合は、設定コネクタの切替設定を必ず行ってください。(詳細は「機能設定」を参照してください。)

施工時のご注意

- 電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
[電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面]が酸化不良をおこし、誤報の原因となります。
- 工事・施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。ショートや故障の原因になります。
- 強電ライン・AC100V配線と小勢力配線はできる限り離して施工してください。強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります。不適切な接続は誤動作・故障の原因となります。
- 接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合は、当社へご相談ください。
- 他社商品との接続は、仕様をよく確認してください。仕様が合わないとは不動作や故障の原因となります。
- 感知器配線の端子に終端抵抗器(10kΩ)(付属)を取り付け、終端抵抗器ラベル(付属)を貼り付けてください。また受信機の交換時は、終端抵抗器をご確認ください。指定以外の終端抵抗器は使用しないでください。
- 蓄積型感知器・蓄積式中継器・中継リレー・火災表示灯は接続できません。



圧着スリーブ処理



終端抵抗器ラベル(付属)

速結端子のご使用方法

- 電線は必ず右記の単線を使用してください。

電線の接続方法	AC100V端子	小勢力端子
電線 ストリップゲージ	φ1.6~φ2.0	φ0.9~φ1.6
	小勢力端子	φ0.9~φ1.6

- 速結端子への入線は、1端子あたり、1本にしてください。
- 曲がった電線は使用しないでください。接触不良などをおこし、不動作の原因となります。

- AC100V端子
 - ストリップゲージに合わせて、電線被覆を12mmむき、**□**心線を奥まで確実に差し込む。

- 小勢力端子
 - ストリップゲージに合わせて、電線被覆を9mmむき、**□**心線を奥まで確実に差し込む。



電線のはしり方

- 1 電線を速結端子と平行にして、ドライバー(小)で解除ボタンを押しながら
- 2 電線を引き抜く。

導通確認のしかた

テスター孔にテスター棒を差し込みれば結線したまま導通確認などができます。(小勢力端子のみ)

付属品

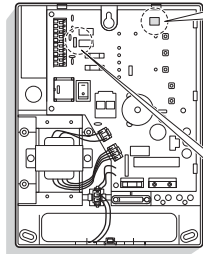
- 施工説明書(本紙).....1枚
- 取扱説明書.....1冊
- 取り付け用部品(終端抵抗器など).....1セット
- 電池.....1コ

機能設定

注意

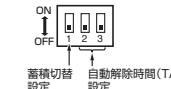
- 電源(AC100V)を切り、電池を取りはずした状態で設定してください。電源が入った状態で設定すると故障の原因となります。

※カバーをはずした状態



1 機能設定スイッチ

下図は、回線は蓄積に設定、自動解除時間(TA)を約2分に設定した場合を示します。



2 地区音響出力切替設定

下図は、地区音響出力(B-BC端子)を無電圧接点出力に設定した場合を示します。



1 機能設定スイッチ

蓄積切替の設定方法

- 蓄積解除したい場合は、「非蓄積」側に設定してください。



自動解除時間(TA)の設定方法

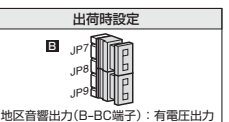
- 地区音響鳴動時にベル(地区音響)一時停止スイッチで停止した地区音響の停止状態を自動的に解除して再鳴動させるまでの時間を設定する機能です。(取扱説明書11~14ページ参照)
- ※設定時間は所轄の消防署に確認してください。



機能設定スイッチの位置	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
自動解除時間(TA)	約2分	約4分	約6分	約8分				

2 地区音響出力切替設定

- 地区音響出力(B-BC端子)を無電圧接点出力にしたい場合は、切替設定コネクタをJP8部に差し込んでください。



切替設定コネクタの位置	JP7 JP8 JP9	JP7 JP8 JP9
地区音響出力(B-BC端子)	有電圧出力	無電圧接点出力

- 地区音響出力を無電圧接点出力とする場合は、所轄の消防署に確認してください。

取付方法

露出配線をする場合

- 本体裏面のノックアウトをニッパなどで破ってください。

本体裏面

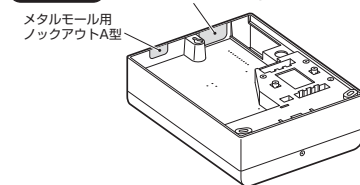
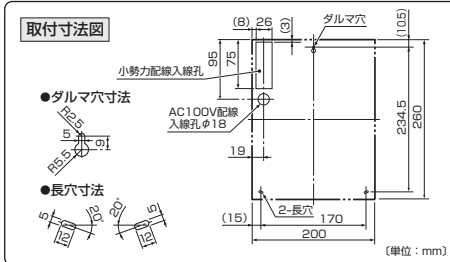
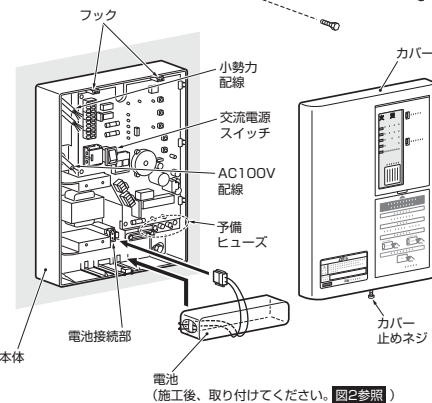
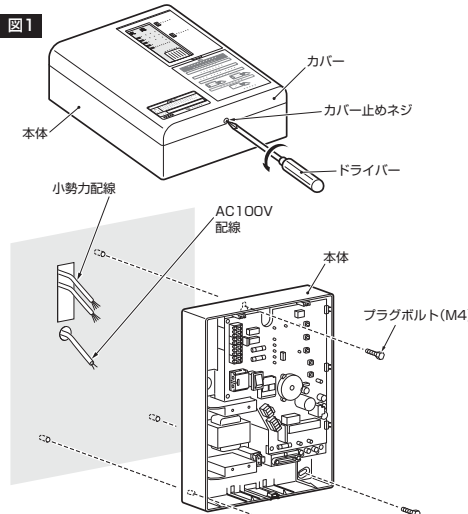
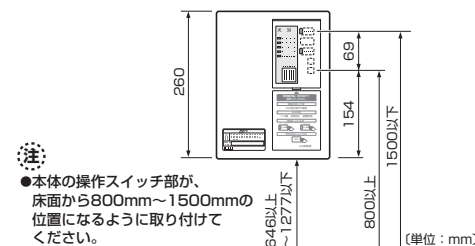


図1



1 取付位置を決め、取付用プラグを打ち込む。

- プラグボルト(M4)(市販品)の打ち込みと、配線を引き込む位置は右記の取付寸法図のとおりです。
- 中央上部のプラグボルトは本体取り付け時の位置決め用としてご利用ください。



- 本体の操作スイッチ部が、床面から800mm~1500mmの位置になるように取り付けてください。

2 カバーと本体を分離する。(図1参照)

3 入線を行う。

4 本体を取付ネジ(3ヶ所)で固定する。

5 配線する。※「接続方法」(裏面)参照。

6 交流電源スイッチを「入」側にする。

7 電池のコネクタを取り付ける。(図2参照)

8 カバーを取り付け、カバー止めネジで固定する。

図2 電池の収納方法

